

～中国青島への行き方（渡航を考えている方必読です）～

下関市総合政策部国際課
（青島市派遣職員）
吉田 和矢

派遣前、最後に青島を訪れたのは2019年秋。そこからコロナによる渡航制限を経て、この度ようやく青島の地に足を踏み入れることができました。変わらない街並みを見てほっとする一方、この4年間の変化で、中国は以前よりも遠い場所になったと感じます。

そこで今回は、旅行や出張をされる方の少しでもお役に立てるよう、私の実体験を基に中国渡航の最新情報（2024年2月8日時点）をお伝えしたいと思います。

【ビザ】

現在、短期滞在（15日以内）のビザ免除措置が停止されているため、原則ビザの申請が必要です。出発前、私は九州・山口エリアを管轄する中国駐福岡総領事館で留学ビザの申請を行いました。COVA（China Online Visa Application）と呼ばれるサイトにて申請書を作成したのち、同館まで直接出向き、申請書類一式を提出しました。申請から6日後、パスポートに貼り付けられたビザを郵送にて受け取りました。

申請には事前予約が必要でしたが、昨年12月18日にこの事前予約制は廃止されました。当時、予約枠はすぐ埋まっていたため、いつ新たな予約枠が設定されるかわからない不安を抱えながら、昼夜問わず頻繁に予約サイトをチェックしていたことを思い出します。この苦勞から解放されるのは朗報です。

ビザは渡航目的に合わせて「観光ビザ」「商業・貿易ビザ」「訪問ビザ」などを取得します。申請手続きは個人でもできますが、中国駐福岡総領事館で申請の場合、申請書は中国語または英語で作成する必要があります。自分で申請するのは不安という方は、旅行会社を通じた代理申請（有料）の方法もあります。

【飛行機】

私は渡航に際し、山東航空の直行便を利用しました。12:55 関空発、14:40 青島空港着でした。以前は青島への出張といえば、中国東方航空の福岡発直行便が定石でしたが、残念ながらこの便はもうありません。福岡から出発する場合は、上海または仁川での乗り換えになります。

なお、1月末にアジアナ航空を利用し一時帰国しましたが、10:35 青島発、

19:35 福岡着、仁川空港では約 5 時間の乗り換え待ちでした。

燃料費の高騰で航空券代も高くなった印象です。以前は 4 万円台でも普通に買えた往復航空券は、今は 5 万円台で買えればラッキー！といったところです。

【空港から市中心部へのアクセス】

2021 年 8 月に青島膠東国際空港が新しく開港しました。旧空港より大規模となり、お店や宿泊施設なども充実しているほか、地下鉄駅と直結しているため利便性はかなり向上しました。市中心部まで、地下鉄では 1 時間半で 7 元（140 円）、タクシーだと渋滞でなければ 1 時間で 110 元（2,200 円）程度です。

【お金】

普段現金を使うことはありません。反対に現金だけの生活はかなり困難です。以前は WeChat Pay や Alipay を使う場合、現地銀行口座のキャッシュカードが必要でしたが、今は外国人でもクレジットカードの登録で使えるようになりました。ただしこの場合、一部店舗では利用できないことがあるようです。また、現金をチャージできないので、個人間送金も利用できません。

【携帯・インターネット】

ネット規制により Google や LINE などが使えないため、海外 SIM カードか VPN の利用が必須です。一方、Microsoft のクラウドやメールサービスは規制対象外で現地回線でも問題なく使えます。ヤフーも検索こそできませんが、ニュース記事閲覧することはできます。あと、私が契約している日本の携帯キャリアは、通話料無料で中国から日本に電話ができるので、日本との連絡の際にはとても便利です。

2024 年に入り、中国への航空便が徐々に増えてきており、中国政府が「ビザ免除再開について真剣に検討している」といった報道もあるので、今後はより一層渡航しやすくなるはずです。ぜひ青島でお会いしましょう。青島見！